

メゴヒメ  
2018年、「愛姫」の新たな物語が始まる。

愛姫

生誕450th  
Anniversary

1568-2018

制作  
三春町／福島ガイナックス  
三春まちづくり公社／みはる観光協会



愛姫生誕450年 特設サイトにて公開

<http://miharu-megohime.com/>

問い合わせ先  
三春町産業課：TEL 0247-62-3960  
三春町歴史民俗資料館：TEL 0247-62-5263

# 戦国の世に 独眼竜で名を馳せた 伊達政宗を 支え続けたひとりの女性がいたー

その女性の名は「アイヒメ」ではなく…「メゴヒメ」

## STORY



戦国乱世の時代、三春の地に別名舞鶴城と呼ばれる三春城があった。永禄11年(1568年)征夷大將軍坂上田村麻呂の子孫を称する三春城主の田村清顕に1人の娘が誕生。愛(めご)と名付けられたその娘は、数え年12歳で伊達家に嫁ぎ、独眼竜で名を馳せた伊達政宗の正室となる。伊達家を支えるため、時の権力者であった豊臣秀吉や徳川家の入質となり、権力者との駆け引きや田村家の改易など、波乱の人生を送った愛姫。生誕450年を迎える2018年。その人生の軌跡を辿り、「愛姫」は新たな物語へ。

## 愛姫の誕生

愛姫は、三春に城を移した田村義顕の孫となる田村清顕と、その妻で相馬家出身の喜多(於北)の一人娘として、今から450年前の永禄11年(1568年)に生まれる。当時、田村清顕の母である伊達家出身の田村隆顕室(小宰相)や大勢の親族や家臣たちの愛情を一身に集めて、この三春の地で愛姫は育つ。

## 坂上田村麻呂の末裔である愛姫と鶴の伝説

三春田村氏は征夷大將軍坂上田村麻呂の末裔を称しており、愛姫もその一人である。坂上田村麻呂には、鶴にちなんだ伝説が残されている。「坂上田村麻呂の母、阿口陀媛(あくたひめ)は、夫となった刈田麻呂が都に帰ってから子を出産した。阿口陀媛が下仕えをしていた家の主人は、これを怪しく思い問いただしたが、阿口陀媛が子の父の名前を言わなかったため、子を捨てさせた。すると何処からか二羽の鶴が飛んできて、その子を運んで育てた。人々はこの奇麗に驚き、阿口陀媛のもとに子を戻して育てさせた」鶴が育てるという奇麗を見せたその子こそ、坂上田村麻呂だ、という話。



愛姫 C.V.: 東山奈央

そのため、三春城下では、鶴の包丁(料理)をしないという決まりごとがあり、昔、雉や鶴は猟をして食用として供され、中でも鶴の肉は珍重されていたが、鶴の料理ができなかつたため、代わりに鶴の形を模した三角形の食が作られ、食べられたのだという。現在、食されている三角形の独特の形をしたゆべしや油揚げもこの伝説に由来している。三春城は別名舞鶴城と呼ばれ、「諸街道延絵図」にも三春城に鶴が舞っている絵が描かれている。愛姫が戦国乱世の時代に時の政権の人質となるなどの幾多の危機を乗り越え、天寿を全うし、田村家の再興を叶えた先には、坂上田村麻呂の末裔としての鶴の加護があったのかもしれない。



愛姫生誕450年特設サイト  
<http://miharu-megohime.com/>

